花の志満臺　貳編　中下

國語
4L
97
2

東雅くとまとまさ、桐意かならぬ人
情本、冬張似あまりまありける熱、嬉
向真見ふなり味まりて乾河あまるあ
いうけ為おもらう好ども、詩歌連俳よりも
に及びぬ、緋川柳評、柳樽角まで
餘篇の長やくされなふすゝ、此巻の

E112785

趣向(しゆかう)は新奇(しんき)を穿(うが)ち、以て人情(にんじやう)世態(せいたい)の移(うつ)り経(ふ)る年月(としつき)や、濵(はま)の真砂(まさご)の書(かき)ぬての筆(ふで)ハ、力ばかり集(あつ)へまれ小冊(せうさつ)なれ、神祇(ぢんぎ)釋教(しやくけう)、恋(こひ)無常(むじやう)切抜(きりぬき)文章(ぶんしやう)[illegible]の、古(ふる)び[illegible]洗濯(せんたく)しく、日本(やまと)で見[illegible]異国(いこく)ゞ口(くち)よ糊(のり)

きゝう作者（さくしや）が苦辛（くしん）は、その固陣（こぢん）のけや

故事（こと）怪談（くわいでん）、見（み）んと好（き）くゆゑに子

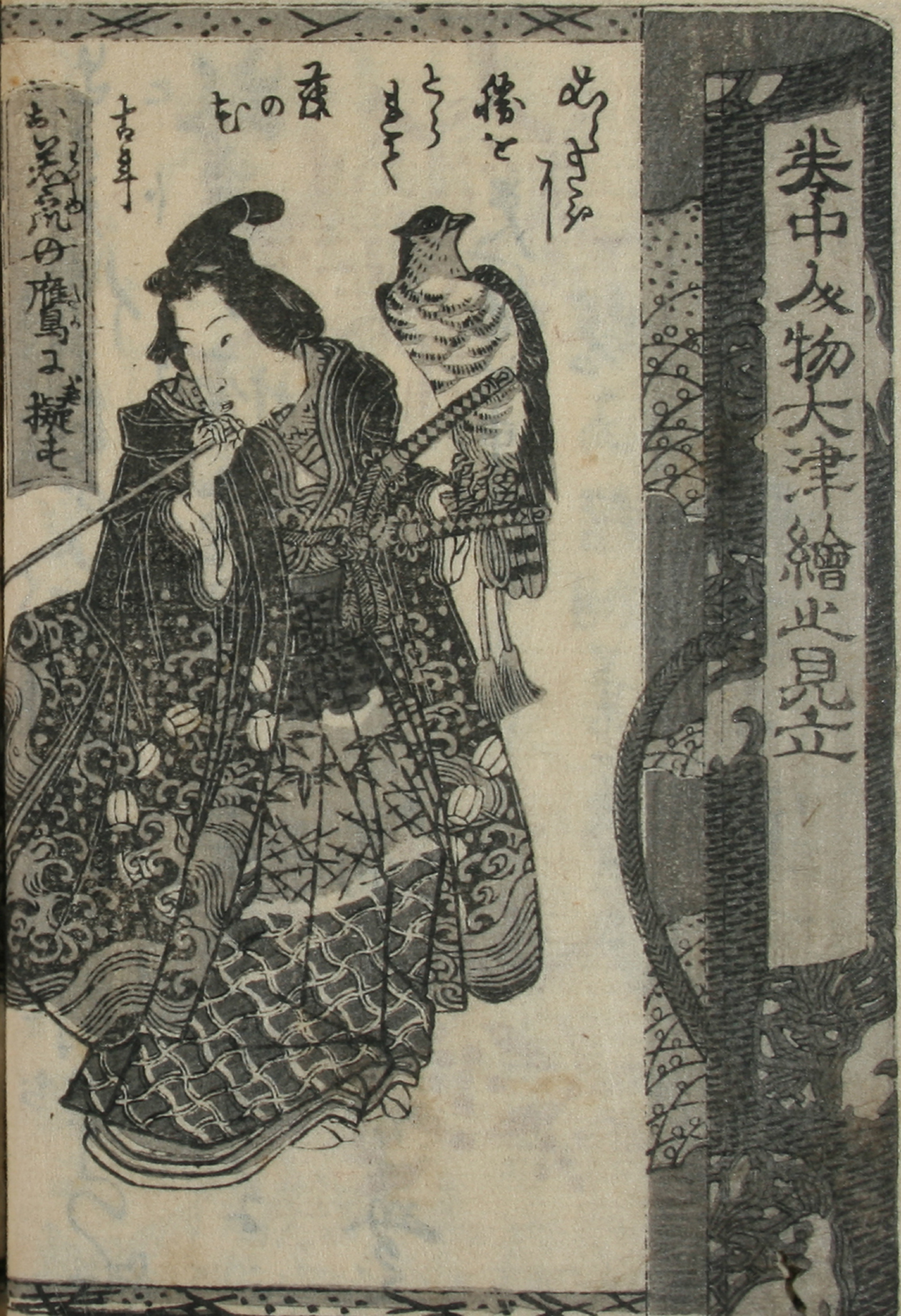
編（つゞ）るものをのすへく

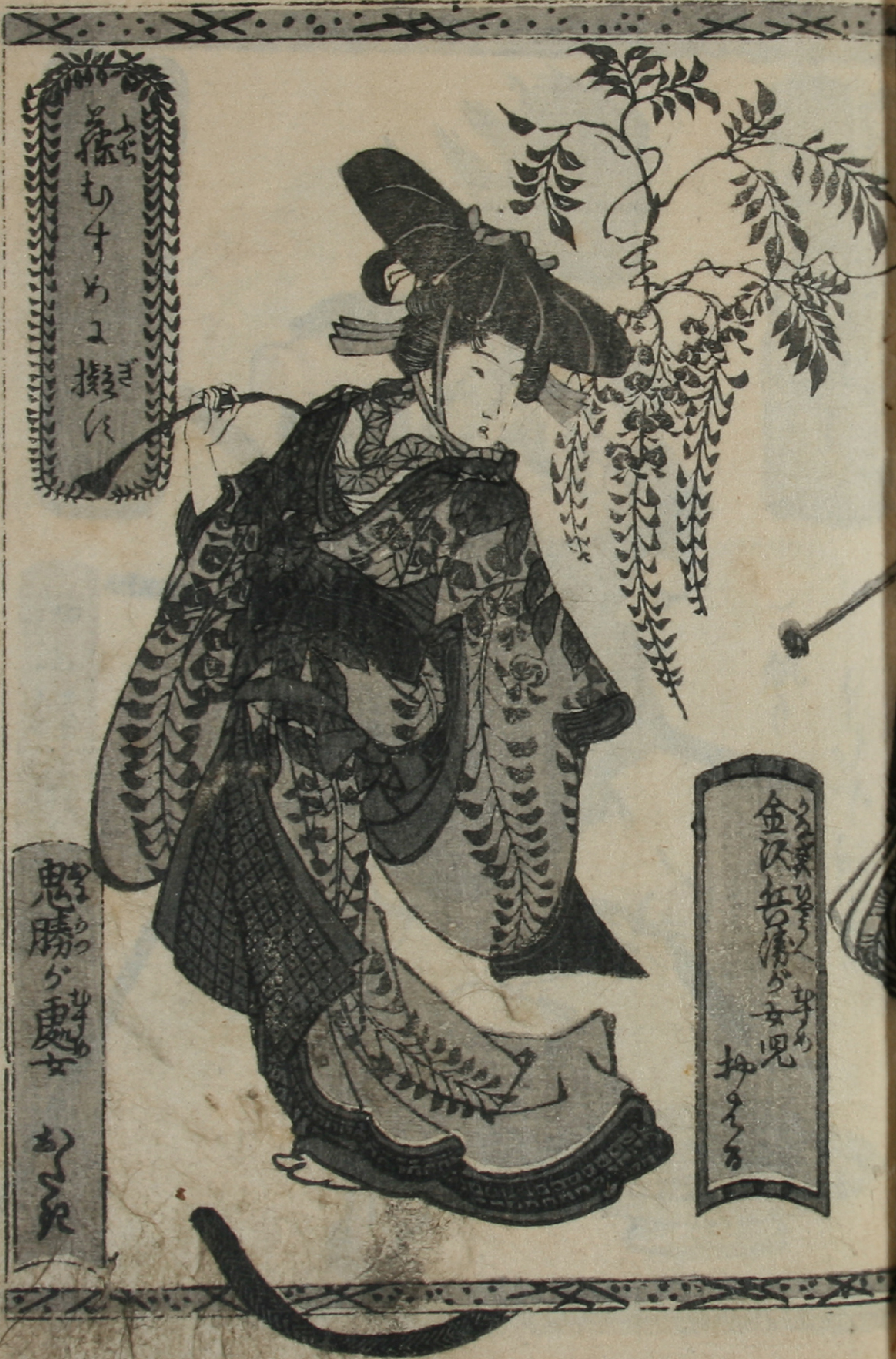
天保七申乃とし

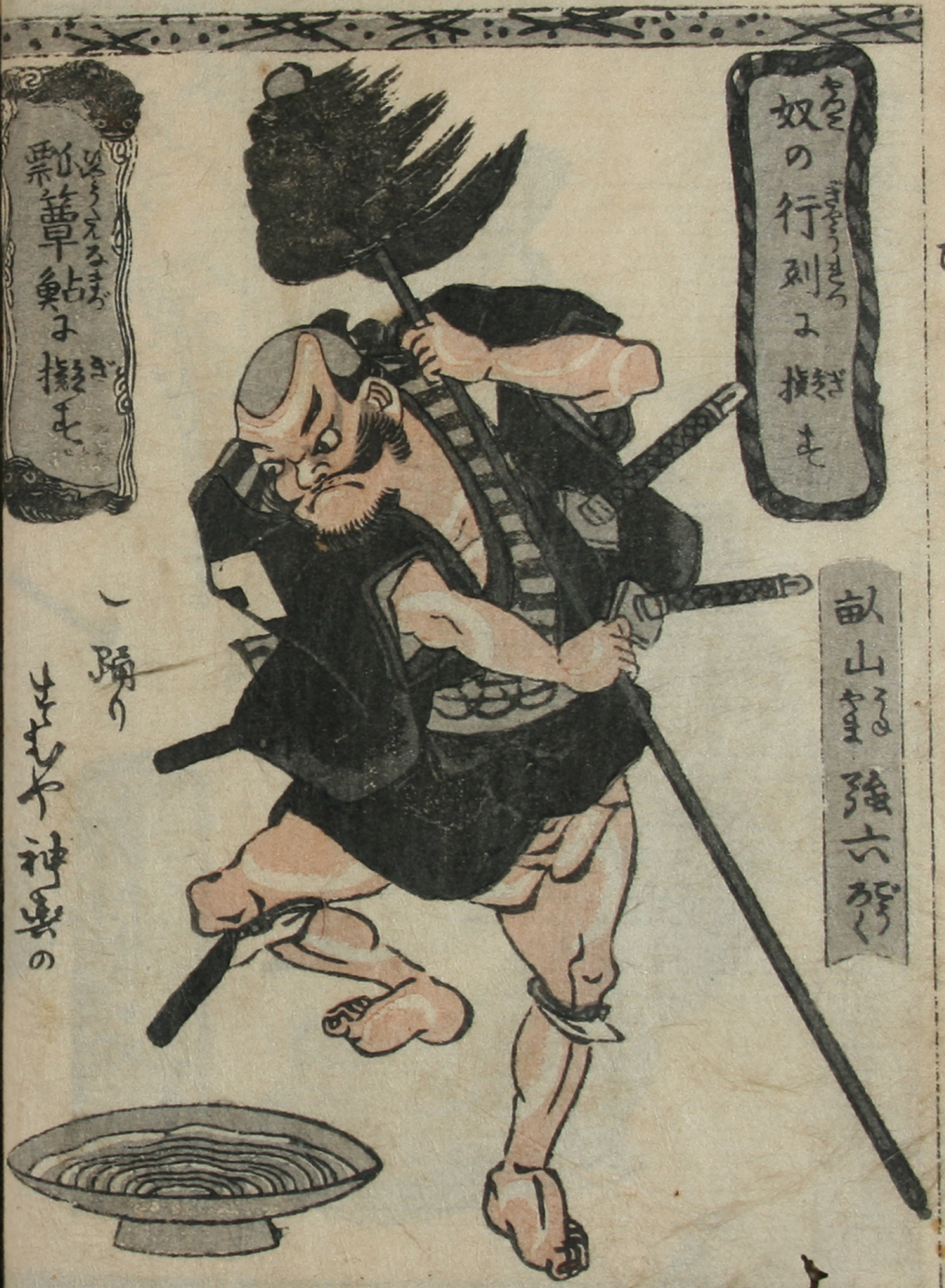
梅雨 楷相葉屋乃夕

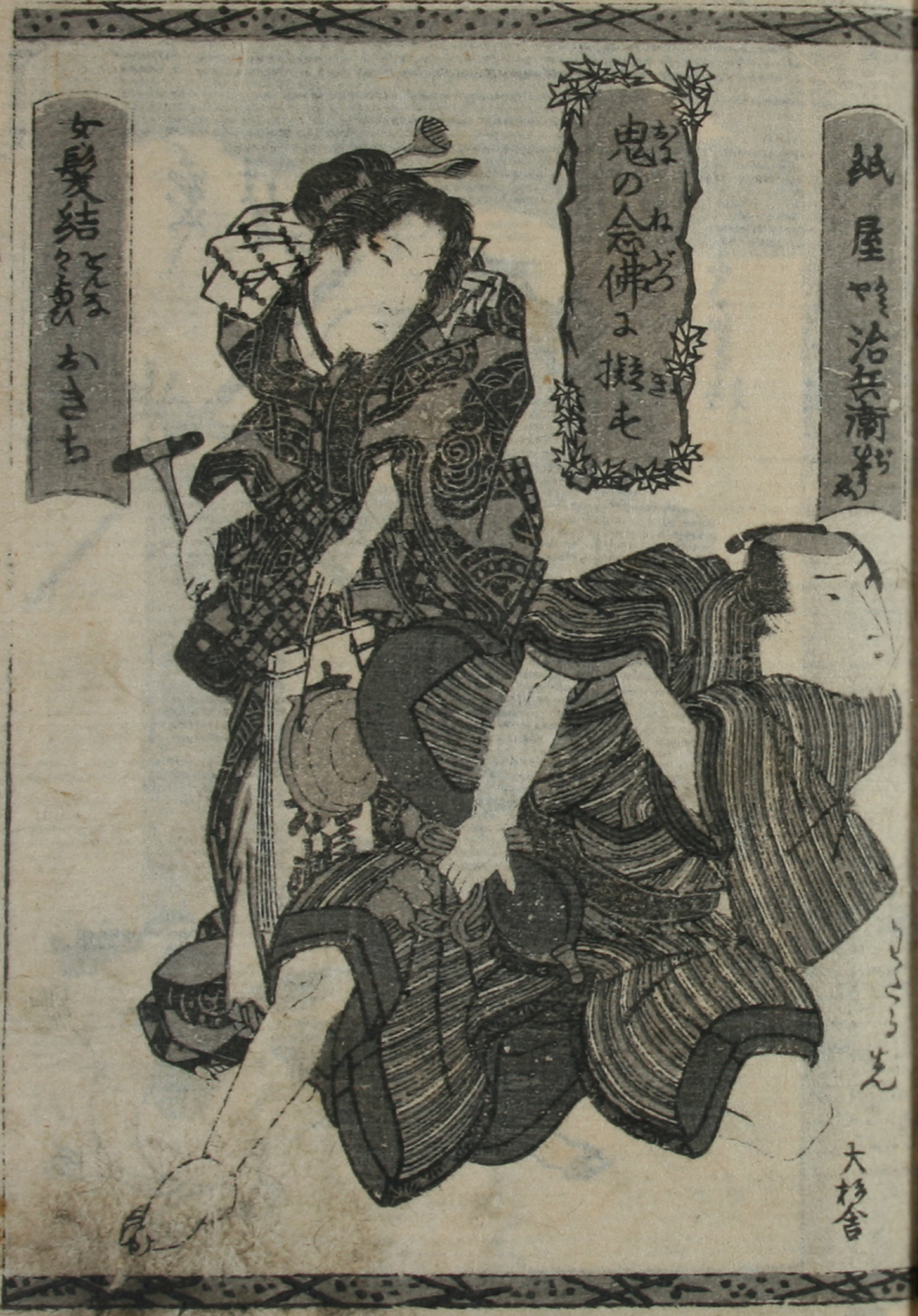
松亭の窻下ニ題之

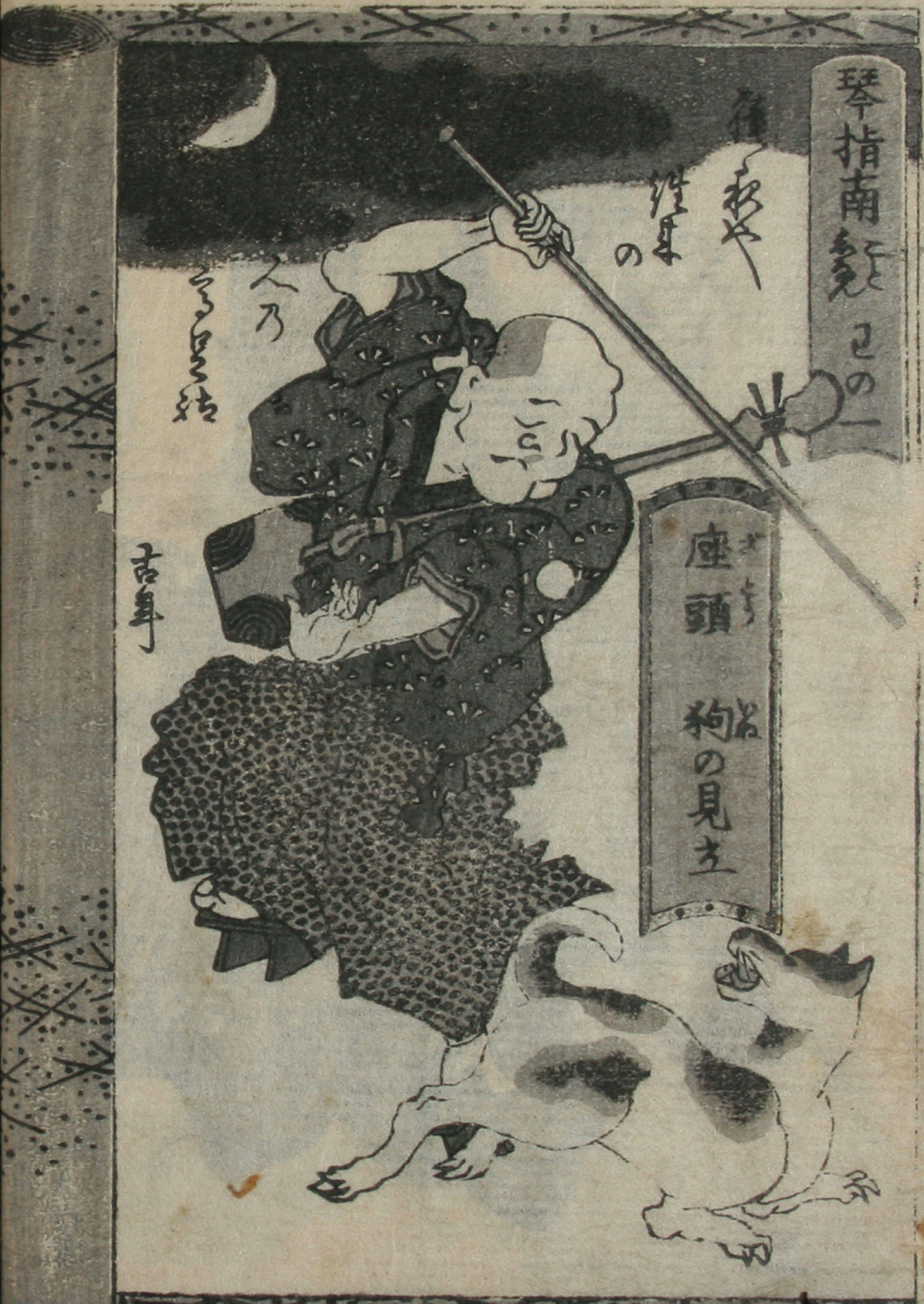
卷中人物大津繪之見立


めづらしく
鷹と
とりまく
藤の
むね
吉年
若衆の鷹匠に擬ふ


藤（ふぢ）もすめに擬（ぎ）え
金沢五百機（かなさはいほはた）が女児（むすめ）　柳のえろ
魁勝（かいりつ）が處女（むすめ）　おこよ


奴の行列ニ擬も
畝山強六
瓢箪鯰ニ擬も
一踊り
まむや神楽の


紙屋治兵衛
鬼の念佛に擬も
女髪結おきち
大杉舎


琴指南（こと）巳の一
雁かねや
先達の
人乃
こゝろ杖
座頭（ざとう） 狗（いぬ）の見立
芳年

比翼(ひよく)連理(れんり)花廼志満臺(はなのしまだい)二編巻之上

東都　松亭金水編次

第七回

思(おも)ふてふ言(こと)の葉(は)のこゝろや秋風(あきかぜ)経(へ)て色(いろ)もかはらぬものゝふぞありけるといにしへ人(びと)の縁(えん)なりしもこふお春(はる)が身(み)ゆゑぞ知(し)らふおもひ思(おも)ひし良人(をつと)の心(こゝろ)がはりをもとゑ一方(ひとかた)ならず歎(なげ)きあのころに其後(そのゝち)は家督(くわぢ)の橋(はし)の中絶(なかたえ)く良(よき)人(それ)もこゝろ逢瀬(あふせ)さへよいとゞ睦(むつ)まぞひとむある哉(かな)ふし又(また)の命(かせ)にはよくそ

所（ところ）がさくまでひとり獨（ど）りくて天間町（てんまちやう）紙屋（かみや）が亭主（ていしゆ）のお

わかく酒（こゝろ）のみや目（ひ）の暮（くれ）て物（あめ）のふさえ見（ひる）よりふらば聟（てる）長へ

そなたは御膳（ごぜん）ひとり言（ごと）「アヽ若（わか）旦那（だんな）さんがいかなさるふまる

宅（うち）の女房も心（こゝろ）のまゝ去るはうか遠（とを）ざかる今（いま）まで

所（ところ）がもくしくらい提灯（ちやうちん）宿（やど）を見（み）て気（き）色（いろ）を居るといふあと

よりやく小（こゝろ）さんがそんな所（ところ）もあらうといふ勝手（かつて）女

あんぶ何（なに）がいふあるそなたろう後（のち）ハ息（いき）をえ見（み）を立（た）てる

うそ覚（おぼ）ゆるかふ手紙（てがみ）をよふゆる書（か）き手紙（てがみ）ハりよゝ願（ねが）ひ入縄（なわ）でたまー

どうぞ〳〵ことし[illegible]母人継てハゐるが[illegible]とも今日
すそもよくぞうして[illegible]又郎さんの[illegible]さんが[illegible]で
と[illegible]いといふ事ハがお吉さんのそろこのが[illegible]
えてハハテどうまゝようと悪女[illegible]浪人[illegible]
つれ[illegible]狗のうちもきゝ[illegible]紙屋の[illegible]
ぐるぐるとめぐる[illegible]顔と[illegible]きらいといひ強ようてふ
[illegible]なり一寸中橋さん乃ある[illegible]中ひきさんが[illegible]
ちよつと表で[illegible]かくへいといふ人が[illegible]待て居ます

うろ見ん会して顔銭おろしまいらせ候時はよ年寄んうらと
おほ人ぞうぞ太根まくおくまゑる外の人にも勤まし又おゐ思う
ふしたのみならけこむ絶ふ勝うちく夫の夫その首尾を
ぎうらくと様ども おまちこうまふ当とひ左お請うちまへ
もむまくん志ぞうくありてくぶ里戸の旅くふそまつと遠し
又里ひまがふ宿るきふ六あり門と喜も又年八して お喜ふ
夫婦中とりんてけりふや こうまく衛くと来りしが嶺まぶ側銭
世の中すき二三郷彼方へ出く八又母人きうすゐね人も有るべしと思

へびが巻（まき）付（つき）[illegible]の[illegible]よつきて[illegible]七[illegible]小[illegible]

かへり小「コレかまきりの畜生（ちくしやう）めが[illegible]しふねんの[illegible]おれが[illegible]

[illegible]くびの[illegible]恨（うらみ）で[illegible]こゝろけふ[illegible]

おのれ[illegible]武士の娘と申すよの手柄なる奴ではいろいきぎれ

がらつ[illegible]で[illegible]さまでいおれが不義（ふぎ）といふふかの[illegible]の[illegible]

利（り）[illegible]人ろといふ[illegible]が[illegible]しとるゝが[illegible]人

[illegible]ても[illegible]ものが[illegible]して[illegible]かくも[illegible]

[illegible]く[illegible]て[illegible]へ[illegible]ず[illegible]の[illegible]

しきみて忠孝(ちうかう)を下徳分(とくぶん)ありまつれど力(ちから)ふまろして勤(つとめ)ともだいせば道(わう)と
いひつく浮世(うきよ)へうまれて生(いき)し道(みち)だが一(ひと)たび病(やまひ)しのぎし(ごく)
さんぬるまへに孫(まご)が産(うま)れて子といふも涙(なみだ)のかわく暇(ひま)やあるべき
(ひき)親(おや)にわかれ小共(こども)をそだてつつ家(つま)の寡(やもめ)へと女房(にようぼう)のよまま
ずつ頼(たの)みにかけし子(て)にさきだてし人のこころ死(し)なれてあとの親(おやぢ)のめと
いひあへ甘(あま)くのゆゑ只(こうぐわう)後悔(そのあと)都(つ)く一がさまつかぬ金銭(かね)ほしけれど
かなしさがあらう迄(まで)よあまよ和(こころもち)く一ケぎやうししそ人ゆへ今(いま)もう
くしいその面(つら)をきらするも躾(ろくぶ)がけがまるいへとぬいぞ(ゑる)きをもあるが

楮紙(こうぞ)とふつく引(ひけ)ぞろく元結(もとゆひ)をさけく乳(みき)ゟし墨(すみ)継(つぎ)紙

漉(すき)ふきて紙を年(とし)よりき血気(けつき)にはやる小宮(こみや)えくき立(た)ちる長(なが)

を潤(うるほ)せし恵(めぐみ)も善(ぜん)悪(あく)修(しゆ)まるかぞいに継(つぎ)をやう

手(そえる)を輪ふ疫(やく)紙をあるいか額紙(うるし)をていいあるべ紙(まろき)の

男(をろ)うらいふ笠(えが)を延(こえる)紙のきまろおがへいふへ健(きる)に口紙刹せ

まと延(えん)紙を買(かひ)にあやせし男(をとこ)ハ料見(りやうけん)なるものとりふが

そりやあんまりぐまちを殺(まな)して取(こちき)りが紙(と)よく

筆(きぞい)でかくんならぬトいふ紙もまろねそのうちにとて名(な)ふ

質天間町あたりきの十字街にて何ごと人立の騒ぎよそまでところばさ小六を把て急ぎゆり殺しに「ころして此川へも脇差ねゆくハ盗ぞかし引剝ハ手篭さまでこの竹紛失も粗忽千万大騒よゆうしてゆるへとまたゞ後の世のためぞかし道るハ是やアおゞりやアこゞハお殺人よくおかへそけつかつ下ハひとつ傍の路次のうち卑是かここで入かけしお香ハ後を背を起しそこの人落ちる黄楊の櫛ひろひとくて我ぶくむすび髪間ハねぐらへもちかへ行く

砂ちかく玉あがりければ小六何方へか隠し髭もミえざれバひとゝ呆れてまくまくとねぐらの洞のうちをたづねかねしさてはかのひまつせバ日ぐらしより野しの小六のさえよく後の方にゐるが玉あれバそも此やうなまるざらかとしたなのゝ吉原あしの芝居もあるは玉ちよりの中のかまさんが袋個の中切らせうとあるいは後さがりよりかゝるもゝ違ひなへコリヤ皆まく源さまねモウ呼出しても出ぬそんならさがミへ廓へ往くそのかけ代篤くり噺し合せ

あるまんハいやゝく そこつが大事 そう〳〵ところへ虚と云ふ実
王と云ふ此身の紙へかくふりろ何成りのしも小言さんへ奉
公人の弟子なりや 頭をめのと かまのうち あくしらし
せうへ此身がそばハテ何とぞさめて男ト色の思案
處女氣に何と絵かきせんかうもかゝる折から番人が時
をとらせの拍子木よかまへハツト かけくら、ヨヤ モウ一番
を打のハ役人國根をとへ姿さんが斧さんが縫ての
て氣がめんで居ぬところ 今宵の手へゆかむ

赤豆松茸黒豆しく無解手腕もわからん和尚一さん宛

おかみさんがどの女房衆のおさとを武芳に咄のあいさつたよ

天道さまがつるてござる多く今様のうちに論り万鎗さん

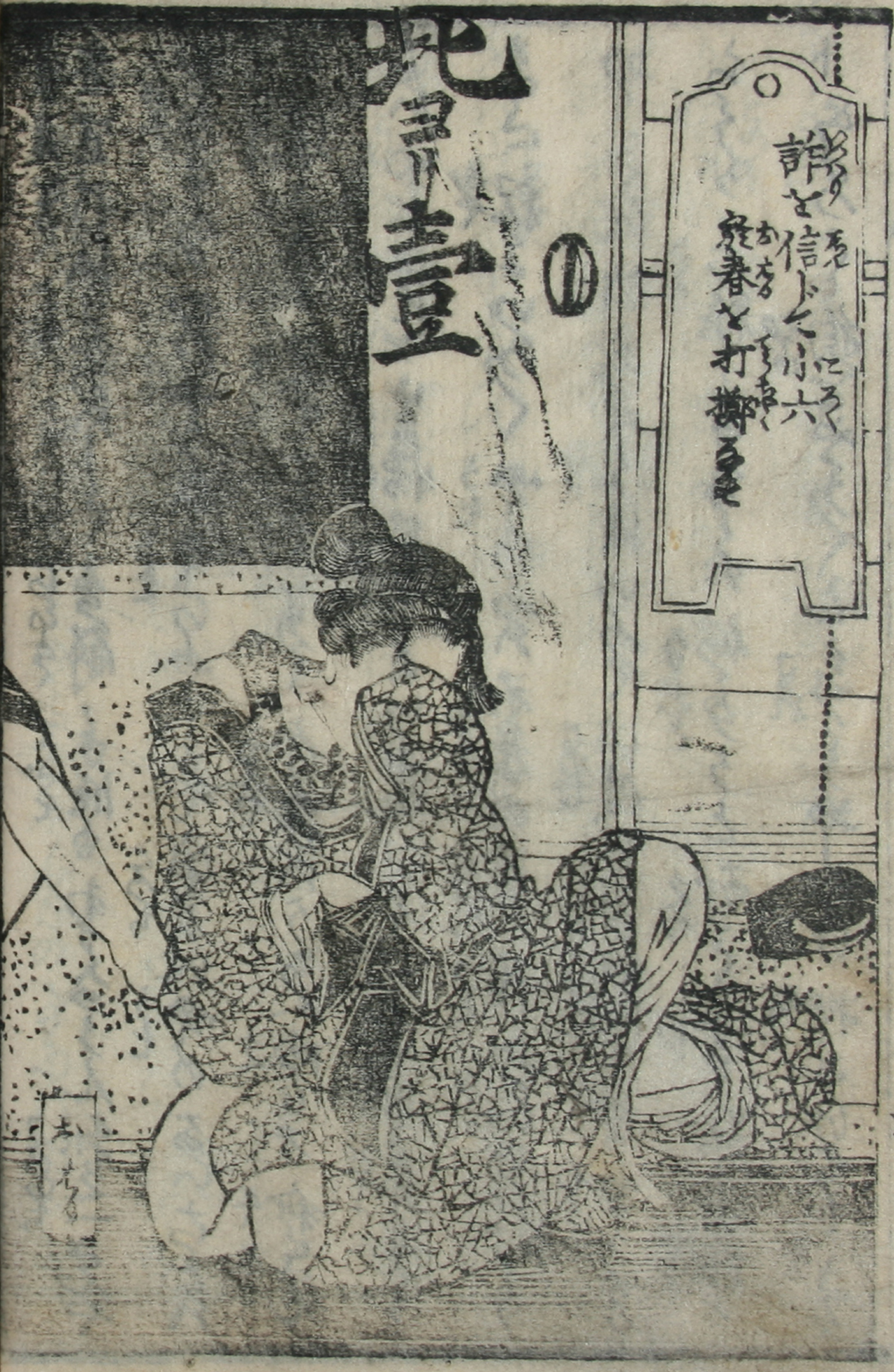
ちやかたきんが生臍出もとらずおうらかいやく鎌よりそく

是さ都よりおかく茶の家茶屋の着一羅紗それより

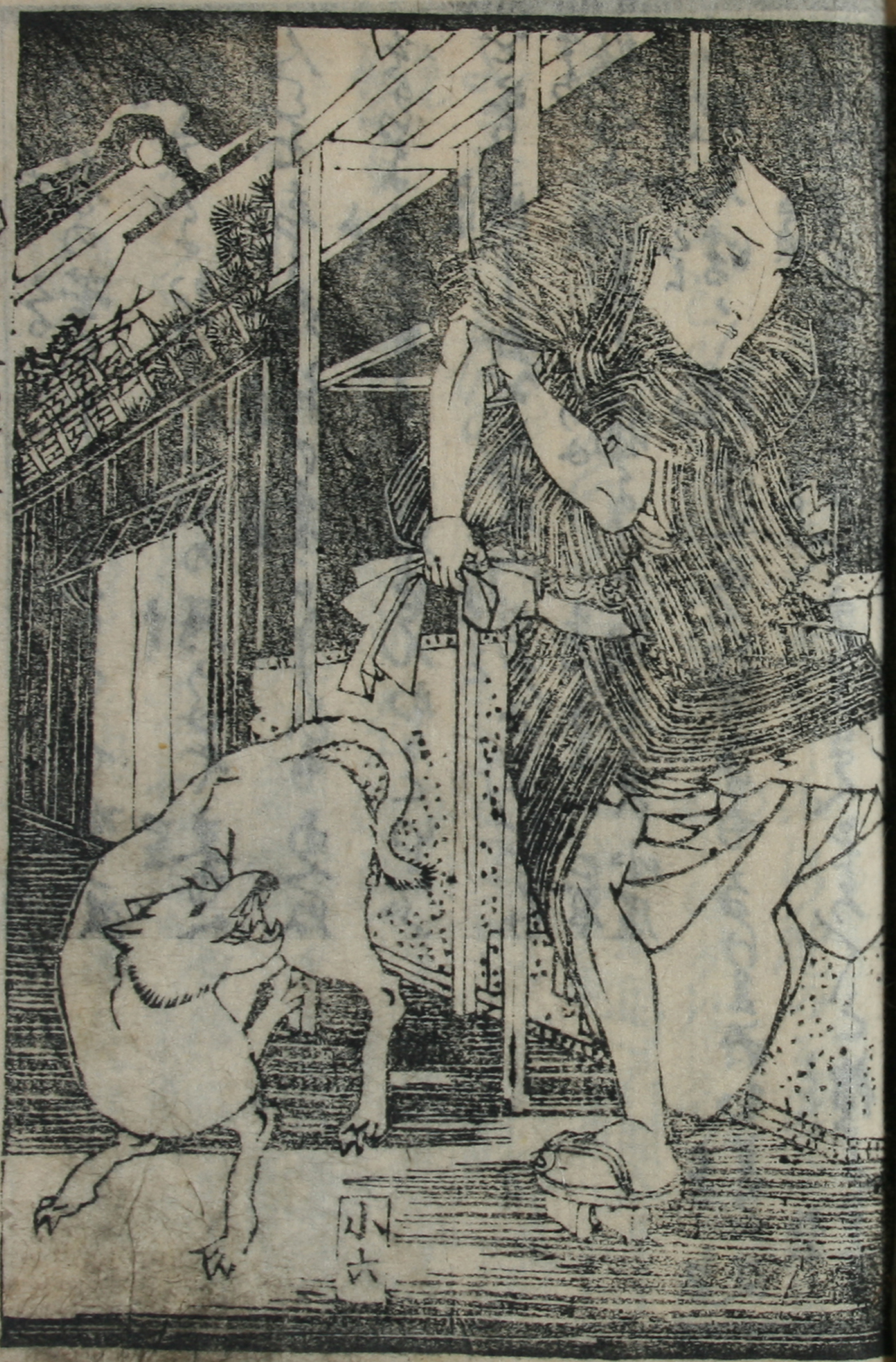
かくれこんだ武者所の世渡の於繪を売ふ前がよう

ちうろう無稽しゃうがへ何事うと都く筆紙うけ根か

ト お侍ろく徘徊やらくと与つら押さけ押さけても さぶ



詐りを信じて小六（ころく）お春（はる）を打擲（ちやうちやく）する


小六

らね様の苦しくさびしくて鳴り鳴や蝦蟇の鳴さ
今さらさらかくりかさ田の隅ならや夢へ不打續くなれ
人しも志つ絃神の為ようひ由あくねめの忍ひ雲間へ
それらの主しとすり為なせんかといふべき人續がきしき
と至り喜し也と喜の門の戸不ことうけくをといあくれば
振くさびしくも寝のしや枕元まへ小屏風をいあぐるし
て燈火も焼く消をとるざむるまも又けまでおまへ文
の国と見えませずしと見え言とさいそらくと積して上る

揚板(あげいた)のある門(かど)みせぞとて抜(ぬき)あしに行燈(あんどう)のそばへ出きて居(すわ)

まく ホッと胸(むね)つく息(いき)をそのまゝ吹(ふっ)し紙(かみ)くれさて小(こ)やミ

どうあらう晴(くら)く知(し)れたらんずる大(だい)そう流(どう)よあろ

さヨ子て おぎりてん そこで そろりと手ぞうしくて涙(なみだ)ぐらう

みえ 何(なに)でも おきさんが あやくッ ちよ 遠(ちか)ひのるいけれど動(どうやら)一

さんが どうろくく 金(かね)成(な)らさところ遣(やり)さへすれば 何(なん)とても(みえ)

気(き)がよくして よくゝ ふんづ そろ〳〵 とうして よけろ

あゝん 遠(とを)ざかつて 此(この)度(たび)中(なか)まんが 世でも 貴(めら)ゝよ

お金（かね）は善（ちゞ）ズ大（か）かくそうぞんじ手（てき）切のところで和（らよ）く
ども一さんに郷（きやう）らくをかつ金銭をかけるまつさの銭あ青（きち）きさんが
よき様どうしく此方（こなた）へくまるまいのつるんづるさつきそりど
うろ命らるいヨ男の仏（ほとけ）とて秋（あき）の雲（くも）とうかけまでさ此方（こなた）へ参る
とまてわどもよ此門に居（わ）るもの銭さまくきまよ往（むかひ）ば折（いけ）参
うり搬（はい）ひりそう〳〵しく形（ぶやけん）えまに仏（ほとけ）相とあらるいぞ惣（われ）なかれ
りんぶつ園果もらくゆぷ法（のり）かまひ切（き）らうるあう一切（せつ）るその時（とき）
よ知（えど）めてあるて世話（せわ）よるりそまろ後（のち）のけふが日（ひ）まさぐ

聞み三父子が命は清るといへども小六さんの情ゆへそれはかりか六
今までは撫つけまつりし上も歎まつりし上も我アヽ子ひとつきまで
世の嫁に女まで一生を五個の雉子があふの只郎と気生
く〳〵しく爺さんがすゝめまゐらするお絹といひよく
雉子も捨られてうき世を捨られ尼法師真似ても
どぎる母さまの菩提を弔ふせそうじや南無阿弥陀仏
こくとおもひなしぜひもなく兄弟にまつくく それとはむつき
さ爺さまの耳へいりお菊がきこへるまいと内の藪うら

貧僧（びんばう）は念仏（ねんぶつ）の聲（こゑ）寝耳（ねみゝ）に笑（きゝ）ゑんしらぬ何（なん）のこと
じやと忌々（いまいま）しく[illegible]しめども女（あま）へぞと嘆（つぶや）きあがらふもち
あざ口はいつまでいふても同（みゝ）トいふ何（なに）か[illegible]（あす）のさつとふみして
子ヲ寝（ね）ませうトいひても静（しづ）かに屏風（びやうぶ）引（ひき）のく甚ぶ
こをいろふ甘えし父（とゝ）の女房（かゝ）ハ蒲団（ふとん）の上（うへ）に合[illegible]（ゐそふ）と作し
鮮血（なまなまの）あふるゝ今（こ）戒（?）擲（むぎ）り血（ち）に塗（まみ）れその御恩（ちきうひめ）一ト圍
さんまよう氣（き）も種（?）孔（あな）[illegible]もよりともさ（?）離（はな）れまで
女のく引おこしよいのかのぞもの縛（しば）られて渾（こうち）ますハすん

て吟味（ひえとえ）咽（のど）喉（つゑ）寄る舌頭（きづなち）より出（いづ）る血（ち）流れ出たり
つゑ二股（ふたまた）とつらぬべきものぞあるき父（ちゝ）が死骸（しがい）のありさま
あまりのことに呆（あき）れてハ涙（なみだ）に潤（うるほ）ひも出（で）ねばなりコリヤ
どうかこう〳〵ようやうと傍（そば）に添（そふ）して死骸（しがい）にしやありて
亡骸（なきがら）かくりを胸（むね）しき髪（うつ）結ひまりとおりしてまうとてさん
兵衛（ひやうゑ）さまどうのよみがへりで此（これは）般よどこゝらあたへ御最期（ごさいごハ）
そのまゝにてこのでござりまするに及（およ）ばぬるまゞも秘（ひ）せず（きさ）ミ（き）に嘆（なげ）き
苦労（くろう）さするのも縁（えん）の者（もの）たれと一個（ひとり）の子（とく）さまの忠（ちゆう）義（ぎ）

どなたも家(うちか)に過(すご)しましても楽(らく)致しませぬと おれが[illegible](なぞ)りで
を身代潰(けが)しあそばしまして あそびでもよい人(ひと)は世(せど)する[illegible]いふその上(ぶ[illegible])
ブぬもつらひ可笑(おかしく)なくても思はるる気(き)が毒を[illegible]るも
ゑん猫の[illegible]毛(け)[illegible](おきゃくさま)の時節(じせつ)が来(き)ておもひ(るいるい)[illegible]さるれる
なる雪(ゆき)ちるも若ひもあらんのふ手(て)[illegible]まへ(ふ)おゑ[illegible]ると云
あんまりでござゐますも 宿(やど)は遠(のと)く[illegible](とき)は若[illegible](くろう)しると
おりやるのかへ 聞(きこ)えませぬ 毛徳(とく)さんふりて一(ひ)トこと
お前(せる)さんコレ 娘(むすめ)ども おりやありてござりまする[illegible](おや)の世帯(せたい)

またゞひとり夜(よ)をとおもふ筆(ふで)とるを秘蔵(ひぞう)の[illegible]先(さき)
ごへく谷(たに)のこゝろ[illegible]手(て)せうおむつまや銅(どう)[illegible]とく
こよひ江(えぞ)ぞをげきしへ雅(まさり)せめくあるまじの縁(える)
よ絹(こゝぞ)もちりけり

第八回

有(あり)りけれども比(ころ)まだよんやく入望(まもなき)あまるべ四五(あまり)あるる人(ひと)も
おのく寝(ねいり)入ぬる誰(たれ)きて語(かた)る人(ひと)もなし〳〵時(とき)よおもふやうは
閑(あご)ゑねる心(こゝろ)細(ほそ)殿とまちあかしらえ(こ)まゞべおくべ腕(うでけり)かかゞ

むつかしき故ごと命がらて父(ちゝ)が侍の我こそ手へせば容をき
ありげな二封の手簡(てがミ)をあげく涙(なみだ)をぬぐひ紗
られそこまでうれふに一封(いつふう)は私共どの之侍よりの
上書(うはがき)はそれまで一封(いつふう)は少ちどの無郷とのよる遺書(かきおき)あり
おまちあかのが名あての方はいそがしく封押しまり涙よ
ながる眼(め)をぬぐひ始(はじめ)よりしてよみ下せば

一筆申入候　さて我等くのきげんく

薄命(ふしあはせ)にもつゞき老年(らうねん)に寄る年(とし)其内(そのうち)に
一子(ひとりご)ありしが人(にん)らう續(つゞ)け久しく病(びやう)氣(き)にかゝる
存(ぞん)外(ぐわい)あるを以て此もの段(だん)〳〵嶺(みね)の任(まか)せぬと
世話(せわ)やとくらぶる一ッ(ひとつ)よろこびの中にさし今
貴(き)小(こ)家(か)らんへ對面(たいめん)して悦(よろこ)びて
よろこび子孝行(かうかう)の其(その)家(いへ)が生涯(しやうがい)縁(えん)くゝ
さらに存(ぞん)外(ぐわい)よろこびよく〳〵あまり
めでたしとてへだて年(ねん)數(すう)ありておこなひにおいて

欲紙持人よりあつまりきたり紙仰付し紙を

縁さへ嫁も私ならず職人と扱ふ事も紙屋

隔く病て命をなしと手世よ間何ろなり

ろうふもあらねバ之等が羅婆参ゆへなく

まつたく我等が私とあつめひし[illegible]そのまゝ是を扱て

がまゝく婿男の親類いさし是等が生

ぐい渥紙私ふゝて生前私恥辱存ずまゝめ

その人生て甲斐なき身紙活生ならんべき

釈（しやく）尊の[illegible]縁由かきりけ一（ひと）ツあらし筆（ふで）を
申てつねこそ其方（そのはう）へ苦労（くらう）をかけ〆[illegible]くも
痛（いた）ましくするにこそ此世（このよ）の縁障（ぢ）し西方浄（さいはうじやう）
土（ど）へおもむきやすき[illegible]の[illegible]の
なうくひ御[illegible]けきやすまるへきもの[illegible]人
よろしく申遺[illegible]の事は[illegible]は
一生不[illegible]人よかならすへしくらしへ[illegible]
[illegible]私なりさまれ一圓小[illegible]なんと

契（ちぎ）りし紙（かみ）結ばしむるは心（こゝろ）を傳ふる人で貞（てい）節（せつ）を守（まも）り女（をんな）の手紙（こゝろ）にそ申さるべく候（さふらふ）あるゝ心（こゝろ）紙跡（ねざ）しくかゝる親（き）までの名残隠（けだ）し事まじく候

一 此（この）秘事（ひじ）を入用（いりよう）なき物（もの）ありがたく家（いへ）に傳（つた）へらるゝ事（こと）あるべし大事（だいじ）にして（まきり）金見後年（こゝろえ）用（よう）ゐるべき（ころ）時節（じせつ）あるべし此（とうて）（さうぶん）よく秘して（また）人（ひと）に見すべからず一ツとも

再び縁組[illegible]し[illegible]相[illegible]とのよしめでたく[illegible]の

承りその節の悦び是よりはすゞしく[illegible]

一

此度当も家代々の末[illegible]壻引受の心

と喜ばしく存じ譲り、目出度封まゐらせ[illegible]

其外中々家業[illegible]り益繁昌[illegible]ー[illegible]

[illegible]たく存まゐらせ候かしく

おはるどのへ

[illegible]より

こゝろのけはひつたなふ気(き)も消(き)え魂(たま)も既(すで)に再採(きさう)なりし
巻紙(まきがみ)も潤(うるほ)ふの折(をり)やなかりけし
遊(あそ)びしかの小六(ころく)の遺書(かきおき)と短刀(たんとう)系図(けいづ)の二巻(ふたまき)も偶(たま)に
手箱(てばこ)のうちにおさめ夜(よ)ふけるがらも此(この)紙(かみ)包(づゝみ)を
ゆめしらせたりやと　あげる其儘(そのまゝ)なりや所(ところ)なきち
ちからふ笑(きこ)ゆる姉(あね)の妻(つま)さへも傍(そば)よりいふ中ね物凄(すさま)じき
身(み)にあまりぐくあまりける処(ところ)へ長屋(ながや)の[illegible](あれのれ)火(ひ)
の用心(ようじん)のこゝろふかく剣術(けんじゆつ)がきく師(な)しして尋(き)ね

あまりしが武家の倅子平生ゆへあそびと見えける[illegible]

の[illegible]より覗（のぞ）きしはおまちが[illegible]のありさまは容子

ありげと見えしが戸（と）を引（ひき）あくる音（おと）に此方（こなた）もかどをきく[illegible]へ

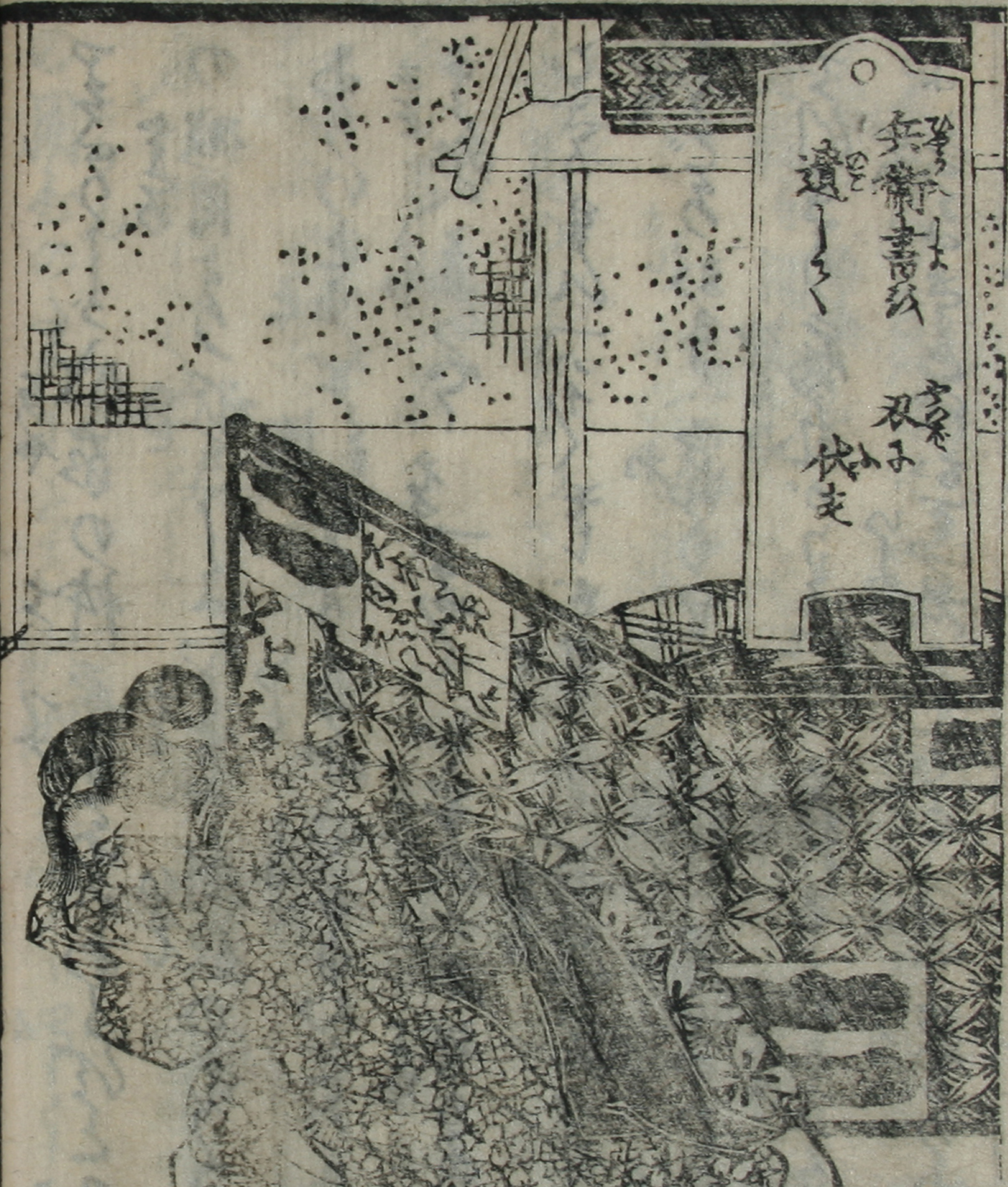
外（そと）へ心（こゝろ）のこして帰（かへ）る「お房（ふさ）やおまへのおふくろも[illegible]

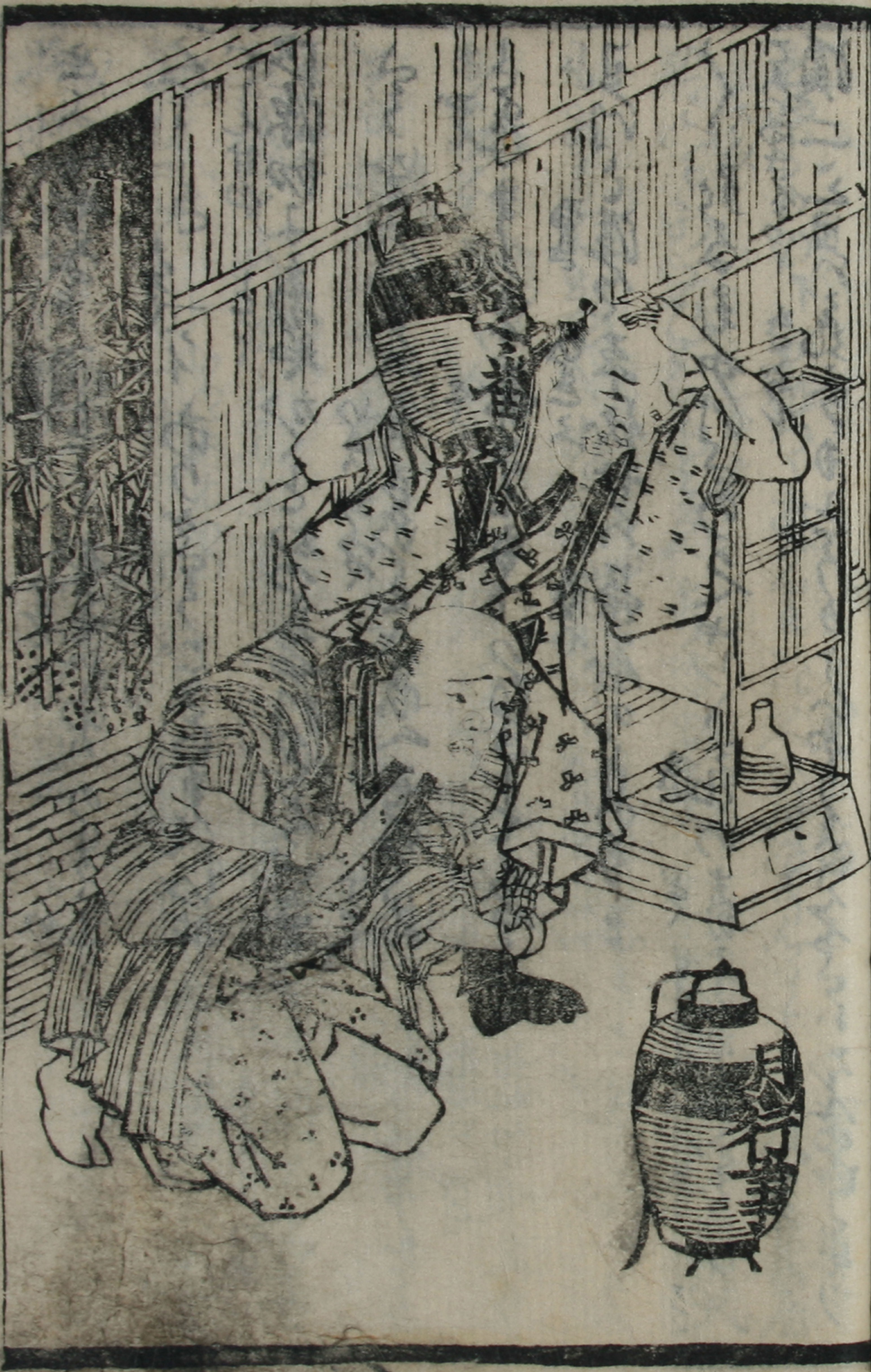
びさうまへ「ハイ／＼モシお母（かゝ）さん[illegible]さんおよろこびなされまし

今（いま）ごろおまへ寝（ね）もせずに案（あん）じて居（お）るのは[illegible]

てめへの病気（びやうき）がなほるのを[illegible]

よろこびさまおまへ[illegible]さんでも[illegible]でのみママ[illegible]


兵衛書殘
遺しおく
宮之
君子に
伏走
武秀写



どふやうト問（とひ）けく彦四郎（ひころ）は女の云由（いよ）にて何にか
くるしき高（たか）へバイありがたふございます御渡申（わた）く主人さん方（がた）
伝源切（でんげん）よ爰もかくとおまへさん内ぐくござりの手を纏（まと）に余（あま）り
さうござりませんト今（いま）お家（おや）さまへそのるばかりあらそひ仕合（し）せ
と存（ぞん）じますが爺（さて）え申ト いひさして嘉やくり揚（あげ）て唄（うた）ひけり
ヨ門と涙（かき）ぐみて手伝（ひまふ）ひ長屋（ろぢや）のものも立寄と喚（さそ）りへヤヤまた
く ふらゑ申けるのくヤレ〳〵気（き）の毒（どく）千万（せんばん）なござろう此（この）
須二三郎（でろゆきえもん）ハ気分（きぶん）中どうぞよいやうに取てくださんの中より

とゆうのトいふやから正邪人の情をすより様く甚しゆ義

の人くあまたに邪義に迷ひあらぬ事のみ貴命をわすれ中く類ひなる

もありて寡く寿命本願を聞人ども

おもふて仏法を此とも覚悟をかろしめ知り人くがた違ひ

をも把出して自身の心の力を知り人に教へ勧め

悪く思ひて何れとも見ずして後の世をおそれ給ふ事も

書てをの一体の知人を頼み

杉新地をうけ葬むるが宗法なれど今まさしく真実の子の修くる

命をちゞめし兵衛どの息子共よろしときゝて親の大目
も多くして渋滞する面々の雑費などのよし寄合もうけ
あふく武家不幸むるべ何のかのつけく身持しと勤め
がらへ人々もそのことをよけれと一決してさて芸道
の渡世をせんといへど国家衆世帯は一銭の働へ
なく酒をのむべき家財もなければいへば甘とも思ひが
懲傷小心が知りて思ひ寄るとき文の一世一代となく
よなさらぬて情もあるべきなれどもあらしらるよりの

ありしそのお見へゆへ今夜(こんや)の時宜(じぎ)まつて元(もと)へ
鑓一筋(やりひとすぢ)もおさせし果の節を直し見んぜ覆(くつがへ)られ
とそのどうらう者(もぐ)しらぬ世の弔(とむらひ)まぎる子の狂ひ(きやう)
ぜうが為と私(わたくし)にいたす信(きう)と心得しも大事にかけ
孫しぞとこの身を君傾城(きみけいせい)に慶(よろこ)びてありしも舞子の
弔(とむらひ)菩提(ぼだい)を人並(ひとなみ)にいとしさうどうぞ頼みます上と回向(ゑかう)
ゆめにて独寝(ひとりね)まで稚きさ妻子(つまこ)を抱へて身人もありませんの
まいどうぞ膝(ひざ)とおぼしめし我が妻子(つまこ)を此の世の御計(はから)

らるゝく金銀へ平まさしてくださりませ惜（おし）む心（こゝろ）の者
約束（やくそく）きけば難儀（なんぎ）のなきしるし家主（おほや）の軒下（のき）にありがたく
窮（きう）して其身（そのみ）も貧（まづ）しきゆへ飢（うゑ）さへ力（ちから）のなきをなげきや
不便（ふびん）なるがゆへお衰（おとろ）が縁よしみもあるゝ傾城（けいせい）に身（み）と
賣（うる）までの事（こと）もなく勤（つとめ）の命のかぎりなれと
ほそき咽（のど）らぶ死（し）んでゆく身（み）ゆゑかなしさのよらんと是（これ）
より彼（かの）宮長へ親類（しんるい）の家（いへ）へ引取（ひきとり）とらんのかはりめ
三年季（さんねんき）の勤（つとめ）のうちより金十両（きんじうりやう）成借（かり）うけと是なお姿

みまかりけれバ かの諸(もろ) 枕(まくら)びらけとて やがて棺(ひつぎ)に入て
の人々 葬送(さうそう)いとなみしが かの糸助(いとすけ)も 聞(きゝ)おくれ 娘子(むすめこ)
まく 事(こと)の仔細(しさい)をきゝかなしみ 事とふらひ 七日までハ
と 家にありて 跡(あと)とむらひ 此方(こなた)へ 引越(こし) 来(きた)るべしと
いゝよこせし 諸(もろ)よろこびて 弔金(ちやうきん)の 残(のこ)り銭(ぜに)を以て 四五迎(むかへ)
所(ところ)の 晴着(はれぎ)ども みなそれぐへかへしける 仏事念仏(ぶつじねんぶつ)不足り
ホくみひそく やがて七日も 過(すぎ)しかバ せめてよるまゐりくる人々に
あいさつを告(つげ)て せうの 私しまひ 糸助(いとすけ)が方(かた)へ行て 親(おや)

まゝ母（はゝ）の手ひとつが光（ひかり）のころの事（こと）なかりし此方（このかた）か
らくね女子（をなご）の貞操（みさを）良人（をつと）をおもふ心が名（な）の一（ひと）字を
さうて小車（をぐるま）とかゝる身（み）を蹈（ふ）むとも厭ひなく連理（つまなる）
如き記しくるゝとも操（みさ）しき處（ところ）なり

花乃志満臺三編上終